

ひめだ高松ニュース

日本共産党 和歌山市公議員

No.1136

17.1.24

新たな年金裁判始まる

1月20日(金)和歌山地方裁判所で「年金引き下げ違憲訴訟」の第一回裁判が行われました。年金者組合は15年5月(原告96人)後に91人が年金引き下げの取り消しを求め提訴。国は高裁のある大阪での裁判を要求(移送)しました。裁判所がこれを認めため、和歌山の年金者組合は和歌山で裁判がでますよう、取消訴訟を取り下げ、給付訴訟(年金力アップ分の給付を求め)に切り替えたのです。

若者の未来にも関わる裁判

第一回裁判の後、華南殿で報告集会がありました。其野弁護団事務局長は、裁判について、裁判が若者の未来にも関わる裁判のため、2人の書記官を法廷に配置したのは「傍聴者が何をするかかわらん」と思っている証拠で、そんな

やり方について、山崎弁護士が質したこと、意見陳述について当初裁判所は書面でわかると思ったが、原告1人、弁護士1人が5分ずつすることになったこと、次回期日は、3月24日(金)14時30分に決まったこととしてくわしました。

年金者組合の中谷県本部委員長は「最低保障制度をつくれ、年金引き下げを止めたい。何もせずに孫やひ孫に非難されたくない」と

琴浦県地評議長は「原告103人だけの戦いでない。若い人や子どもたちの未来に関わる社会保障のあり方の問題だ」と支援を呼びかけました。

若い人や子どもたちの未来に関わる社会保障のあり方の問題だ」と支援を呼びかけました。

フリーの人々

(919)



並んだ順に右から左にリストアップしてあげよう



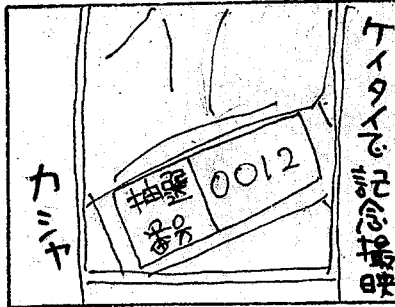
当たっても外したら無効です

あたしんや3+

当選発表

120
122
124
126

1-2-1番 ナイ!!



カメラで記録監視

年金裁判支援せんべい

年金裁判支援の財政活動で「ゆんきんせんべい」が販売されています。製造中止となった「9条せんべい」だければお届けします。

今週のフリーの人々

(その82)

行列ができる裁判所

ふだん行列に並ぶことは、ほとんどありません。行列ができる美味しい店より、美味しくなくても、すぐ食べられる店を選びたい私なのです。そんな私が並んだのは、裁判所の傍聴券を手に入れたための行列です。1月20日、和歌山地方裁判所の玄関前に集まったのは、百人を超える年金裁判の原告とその支援者のみなさんでした。大勢の傍聴者が



ひめだ高松

甘くておいしい

国民救援会の旗開き

クイズ大会
早稲田大学

1月18日(水)華月殿で開かれた国民救援会の旗開きに松坂みち子議員も参加しました。国民救援会の旗開きでは毎年、救済新聞の新年号からクイズが出されます。今年は時間的に余裕があったので読んで行ったのですが、私が読んだのは新年号ではなかつたようです。このクイズの2回めで松坂議員は、見事早稲田大

和歌山学習協の旗開き

1月20日(金)県教育会館で開かれた学習協(和歌山県労働者学習協会)の旗開きに参加。年々参加者が減っているようですが、今年も松野理事長特製のサンドイツとおでんを美味しくいただきました。参加者

私も早稲田大で、その帰り道、大事なカバンを忘れたことに気付き、あわてました。浮かれたらアカン!!

全員のスピーチで、私は学習新聞400号記念誌への投稿が少なく驚いた。労働学校の学習の夜なスポーシ交流の復活を望む。この旗開きには、衆院1区候補の原やすひささんがおいしかったです。

くんにちは日本共産党

日本語を大切に

この本の著者は、「無駄に多用されるカタカナ語は外国人が聞いても不思議な気持ちになる」という。この日も一度学ぶ日本語には、日本語

に戻したいカタカナ語トップ10が紹介されている。上位3位は、ノ・リスペクトする・尊敬する・敬意を表する、2. ネグレストする・無視する・おろそかにする、3. サーベイランス↓調査監視。

どれも日本語のほうが分かりやすいと思う。なぜこうした言葉をカタカナ

英語で言ったり書いたりするのだろうか。日本語を使うことのほうが、相手の立場によりよって自然な話ができるので、と思う。日本語を大切にしたい。



原やすひさ (衆院1区)

潮流

「ファースト」といふ言葉がこの頃よく耳にします。都民や民や識者による反発や抗議のデモ、式典に欠席した大勢の議員、対立や憎悪を露呈中からかき立ててきたトランプ氏の言動は米社会に新たな溝をつくっています。▼新大統領が打ち出す米国の第一の先行きは不透明です。草の根で湧いてきた米国の自由や民主主義の伝統は今後どうなっていくのか。世界も内向きで国益だけを追求する外交姿勢に警戒感を強めています▼このなかにおいて、日米同盟を「不変の原則」として強調する安倍首相。これは、今も、この頃から、たとえ何があっても付き従う。自覚も主体性も欠いた日本の首相の「ファースト」。その上に国民が付かないことだけはたしかです。

「ファースト」といふ言葉がこの頃よく耳にします。都民や民や識者による反発や抗議のデモ、式典に欠席した大勢の議員、対立や憎悪を露呈中からかき立ててきたトランプ氏の言動は米社会に新たな溝をつくっています。▼新大統領が打ち出す米国の第一の先行きは不透明です。草の根で湧いてきた米国の自由や民主主義の伝統は今後どうなっていくのか。世界も内向きで国益だけを追求する外交姿勢に警戒感を強めています▼このなかにおいて、日米同盟を「不変の原則」として強調する安倍首相。これは、今も、この頃から、たとえ何があっても付き従う。自覚も主体性も欠いた日本の首相の「ファースト」。その上に国民が付かないことだけはたしかです。

富を取り戻す、米国を再び偉大な国にする」と彼の支持者の多くは忘れられた人たちと呼ばれます。失業や貧困、荒廃する地域や家庭…。大国の繁栄から取り残され、経済格差や社会的な差別に苦しめられてきた人々の怒り。それが既成政治からの転換を求めたのです▼華やかな就任式。一部の熱狂はあったものの、オ

赤旗 日刊紙 3497円